

新

シリーズ14 最期を生きる一第2部④ 広がるみとりの場

ひょうごの医療

命ある限り、自分らしく生きてほしい。そう願って病院を...

ホームホスピス 「サッカードが好きやね」

ホームホスピス

仲間と家庭に近い環境で



スタッフと庭を眺める山本ケイコさん(左)。日々を穏やかに過ごす洲本市、「ぬくもりの家 花・花」

ホームホスピス がんなどの重い病気で終末期を迎えた患者や障害者...

細かい規則はなく、家族の出入りも自由。往診や介護、入浴などの各種訪問サービス...

入居者の最晩年をどう支える？

暮らしを楽しめるよう意思尊重

ホームホスピスでは心と最晩年をどのように支えているのか。兵庫県内第1号の「神戸なごみの家」...



松本理事長 ホームホスピスは「家」なので、食べの料理も、着る服も、出かける場所も、受ける医療も...

「数値も優等生や」。訪問看護師が採血結果を引き合いに冗談を笑う。訪問診療を担う医師も長年のかかりつ...

入居者を支える体制

- 緩和ケア専門医が24時間訪問できる
薬剤師が介護職にも分かるよう薬を準備
余命短い入居者を同居者が見舞うことも
調理、傾聴、散髪、園芸のボランティア

しむのに必要な処置をするだけです。住み始めたころは死の恐怖で電気を消すのも怖かった人も、苦しみを伴わず旅立つ同居者の姿を知り、暗がりも平気になりました。末期の人たちが家族のように一緒に暮らす「とも暮らし」の良さでしょう。

ホームホスピス運営の特徴

- 日当たり、風通しが良く、庭がある
生活のにおい、人の気配が感じられる
個々の生活史を本人や家族から聞く
日常的に死も話題にし、意思を確認
地域住民の医療や介護相談にも乗る

(全国ホームホスピス協会の基準から抜粋)

民家改装「第二のわが家」

かつきなどの激しい副作用をもたらした。そばで寄り添ってほしい夫はすでに他界。苦しい積極治療を避けて退院したが、同居のため家事もままならない。近くにきょうだいも住むが、「身内に迷惑はかけたくない」。そんな時、療養の場として病院から花・花を紹介され、2015年に移り住んだ。リンパシオンした木造民家が素朴で懐かしい雰囲気。中庭に四季の花々が咲き誇る和やかな風景も広がる。そして何より、同じような境遇の仲間が迎えてくれる。「ここで寂しい思いすることなんてないわ」。穏やかに過ごす日々が始まった。

美容室も晩酌も

美容室に出かけて髪を仕上げ、やれに整え、夕食でビールもたしなむ。天気が良ければ中庭に出て日光浴をし、トマトや草花に水をやる。同居仲間や看護師・介護士らスタッフと旅の思い出話などに花を咲かせる。「戦争に病氣...。いろいろと苦労もあったけれど、今は十二分に幸せや」とほほ笑んだ。(佐藤健介)

◇次回シリーズは9月、「最期を生きる一第3部 よりよいみとりと支援策」をテーマに掲載します。電子版「神戸新聞NEXT」に過去シリーズの特集ページがあります。